

夢のとなり

本とわたし
327

片岡 良介

「あなたの夢は何ですか。」
と聞かれたら、今の私は何と答えるだろう。

幼稚園の頃の生活発表会。大きな声で、

「消防士。」

と答えた自分がいる。思えばそれが、職業を意識した初めての夢だった。母に当時の様子を聞くと、絵本を読むことにはまっていた私がとりわけ夢中だったのが、『しようぼうじどうしゃじぶた』で、毎週同じ絵本を図書館で借りては声に出して読み、暗記までしていたそう。体の小さかった自分をじぶたに同化し、活躍することが嬉しかったのだろう。

小学生時代。ソフトボールをしていて一番打者だったことから、同じく阪神の一番打者の真弓選手に憧れていた。また、アメリカ大リーグで活躍したジム・アボット投手について書かれた『ジム・アボット物語』に心をうたれ、プロ野球選手を夢見るようになった。

中学生時代。伝記に夢中になり、『エジソン』

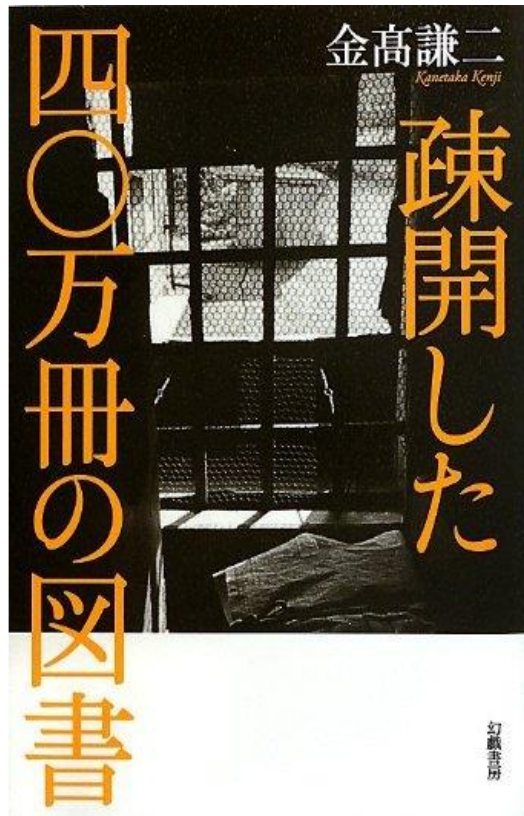
『ヘレン・ケラー』など海外の人物から、『福澤諭吉』『北里柴三郎』など日本人まで手当たり次第読みあさり、その中でとりわけ難病と闘う『野口英世』に使命感を刺激され、医師になりたいと思うようになった。

高校生時代。一冊の本を手にする。『兎の眼』だ。灰谷さんの作品にふれるのは初めてで、ベッドで読みながら涙がこぼれたことを今でも鮮明に覚えている。そして高校二年生になり、将来の夢を真剣に考え始めた。意外にも答えはすぐに出了た。それは、小学校の先生だった。その夢は、その先二度と変わることはなかった。

振り返ると、私の夢のとなりにはいつも一冊の本があった。自分で選んだのか誰かに薦められたのかは覚えていないが、私の一部になってきたことは間違いない。

「あなたの夢は何ですか。」
今は子ども達に問う立場だが、今の私ならこう答えるだろう。

『わすれられないおくりもの』のアナグマさんのようになりたい。」



図書館の本棚 332

『疎開した四〇万冊の図書』 金高 謙二 著

幻戯書房 277頁 2013年8月刊 2,400円 (請求記号) 016.2

東京市立日比谷図書館は明治四一年(1908)、市民のだけれども利用できる図書館をめざして設立された。開館当初から、子どもや大人で連日大入りであった。関東大震災で被災し、後年、建築上危険であるとして閉鎖が決定すると、市民の猛反対にあい、応急的な補修補強を行い開館を続行したという。市民の生活に深く根をおろした図書館であった。

やがて戦争が始まり、戦況が悪化した昭和一八年、図書の疎開が国策となり、各地の図書館で疎開が進められた。日比谷図書館でも、昭和一九年、都心から西へ五〇キロの西多摩郡多西村の民家の土蔵に図書を移動させることになった。江戸期から昭和にかけての江戸・東京に関する資料「東京誌料」など館の最重要図書が、木炭トラックや大八車、勤労働員の一中生たちの背負うリュックで運ばれた。同時に、新任の館長中田邦造の指揮のもと、個人所蔵の貴重書の買上げを開始、反町茂雄ら古書店主が図書評価委員に委嘱され、空襲下の東京で膨大な図書を購入し疎開させた。昭和二〇年五月、日比谷図書館は爆撃により全焼、館に残されていた二〇万冊が灰燼に帰した。しかし、疎開させ焼失を免れた四〇万冊の図書の中には、戦後重要文化財に指定された「江戸城造営関係資料」をはじめ、曲亭馬琴自筆『南総里見八犬伝』稿本など貴重な文献資料が多く含まれ、その後の研究に大きな役割を果たしている。

本書では、多岐にわたる資料の引用と関係者の証言により、難事業を成し遂げた中田と彼に厚い信頼をおき買上げに貢献した反町について詳述するとともに、各地の図書館の取組が網羅され、興味は尽きない。

(片木)

てぶくろ

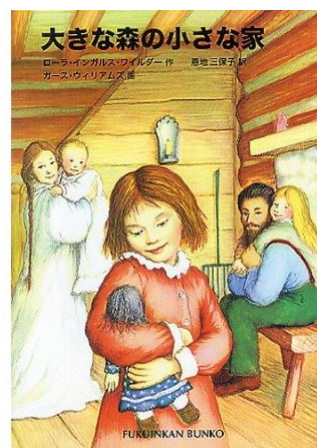
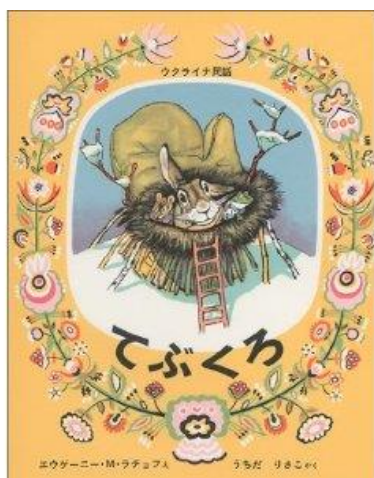
エウゲーニー・M・ラチョフ 絵
うちだりさこ訳 (福音館書店)

おじいさんとこいぬが森の中を歩いていて、手袋を片方落とし、そのまま行ってしまう。すると、ねずみもぐり込んで、手袋で暮らすことにしました。そこへ、かえるが跳ねてきて、声をかけました。「だれ、手袋に住んでいるのは?」「くいしんぼねずみ。あなたは?」「ぴよんぴよんがえるよ。私も入れて」「どうぞ」

次にはうさぎが、その次にはきつねが、おおかみが、いのししがとやって来て、手袋はぎゅうぎゅう詰めになりました。最後にはくまが入り、はじけそうになったとき、戻ってきたこいぬが手袋を見つけてました。「わん、わん、わん」みんなはびつくりして森のあちこちへ逃げていきました。

繰り返しが楽しいウクライナ民話です。動物たちの名前が面白く、リズムカルに読めます。落ち着いた色の絵が美しく、冬の森の静けさが伝わってきます。読んでもらえば、二、三歳から。

(小西)



子どもの本だな 3

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

大きな森の小さな家

ローラ・インガルス・ワイルダー 作
ガース・ウィリアムズ 画 恩地 三保子 訳
(福音館書店)

ずっと昔、北アメリカの大きな森の中にある丸太作りの家に、父さん母さん、ローラ、姉のメアリー、妹のキヤリーの五大家族が暮らしていました。もうすぐ冬。今のうちに、できるだけたくさんのお話を蓄えておかなければなりません。父さん手製の薫製器の中でいぶされたシカの肉。荷台に山盛りの魚は塩漬けに。太らせた豚はハムやソーセージ、ラードに変わり、小さな家の食料部屋や屋根裏部屋は、上等の食料でいっぱいになりました。一週間は、曜日ごとに仕事が決まっています。ローラは木曜のバター作りが大好きでした。牛乳の上に固まったクリームを鉢に入れ、つき棒で何度もつぶしていると、やがて小さなつぶができて、それを固めて型でぬくと、きれいなイチゴ模様のバターができてあがります。

冬の夜は、父さんが罫の手入れをしながらお話を語り、ヴァイオリンと歌が始まって、一日で一番楽しい時を過ごさずにはいられません。

今から百四十年ほど前のアメリカ開拓時代、必要なものはすべて手作りの生活が、五歳の少女ローラの目を通して語られます。父さんの語るお話をさみながら、厳しいながらも満ち足りた日々が四季を通して体験できるでしょう。八歳くらいから。

(池田)

《おはなしの時間》

毎週土曜日に、おはなしの部屋で開いています。

- ・ 11:00～（4歳から小学2年生）
 - ・ 11:30～（小学3年生から中学3年生）
- 1月は「ババヤガーの白い鳥」「金色とさかのオンドリ」などを予定しています。

《絵本の時間》

毎週木曜日、午前11時から（約30分）

2、3歳のお子さんが対象です。お母さんお父さんといっしょに楽しんでください。

1月は『しんせつなともだち』を予定しています。

1月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

1月・2月の移動図書館(いずれも木曜日です)

1月	2月	10:30 ～11:00	11:10 ～11:40	14:30 ～15:00	15:10 ～15:40	16:00 ～16:30
9日	6日	塚森 公民館		福地 三反長 地域内	米田 公会堂	竹広南 公民館
16日	13日	岩見構下 公民館	岩見構上 公会堂	原池団地 公民館	山田 掲示板 前	原 太田東地 区農村交 流センター
23日	20日	広坂 公民館	上太田 公民館	沖代 地域内	吉福 公民館	太子ニュー タウン 公民館

1月31日（金）、2月28日（金）は館内整理日のため、返却のみ受け付けます。
2月12日（水）は祝日の振替のため、休館します。

×印は休館、□印は午後1時まで開館。
開館は10時からです。
金曜日は午後8時まで開館しています。

地 下 水

『「便利」は人を不幸にする』という書名を目にするたびに、居心地が悪くなる。

旧貸出券には、職員が利用者の氏名や地区を書き込んでいた。竹、正、西、村など、いくつか書くのが苦手な漢字があり、貸出券を利用者に手渡すとき、申し訳なく思うことがあった。現利用カードの氏名記入は、利用者本人や保護者にお願しているため、そのような気持ちからは解放された。一方で、書ききという作業がまた減ったな、と寂しく感じた。

パソコンや携帯電話にたより、手紙を書くこともなくなってきた。時間をかけて書いた手紙のポストへの投函が煩わしく、出さずじまいということがなくなってきたが、返信の封筒の厚みの感触や受け取ったときの喜びも消えた。

休日にはしか作れなかったパンも、機械が朝起きる時間には焼きあげてくれる。パン生地をこね、なめらかになつていく感触や発酵具合などせつかく体で覚えた感覚が失われてしまった。機械は時間を作ってくれ、一日にできることを増やしてくれるけれど、感覚や作る楽しみをなくしてしまう。

開拓時代を描いた『大草原の小さな家』の生活を一度体験したいと思いつつ、ふと不安さを感じる便利さにどっぶりつかってしまっている。そして、また、欲しかった調理器具を買うため、パソコンのキーをカチツと押してしまつた。

(竹内)